

東三河支部

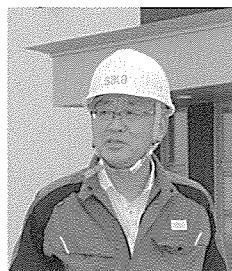
9月例会

- ・日 時：10月2日（水） 午後1時30分
- ・場 所：サーラEパワー（株）
東三河バイオマス発電所
（豊橋市新西浜町2-10）
- ・出席者：29名

9月例会は、「バイオマス発電施設見学で温暖化対策、カーボンニュートラルの仕組みを理解する」をテーマに、サーラEパワー（株）東三河バイオマス発電所へ施設見学を行いました。

例会は開会の辞を副支部長竹内臨通夫氏が述べ、支部長の鬼頭秀幸氏の開会の挨拶後、研修指導委員長の柏原宏人氏から「地球温暖化対策のために“再生可能エネルギーの固定買い取り制度”（FIT制度）が進められています。その中に再生可能エネルギーの一つに、生物由来の有機性資源（今回はPKSパーム椰子殻）のバイオマスがあります。植物の成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素に由来し、そのためバイオマスを燃料として使用しても大気中の二酸化炭素は増えないと考えられています。（この性質をカーボンニュートラルという。）今回施設見学を通じ、今一度地球温暖化対策について考えていただく機会としてください。」と趣旨説明がありました。

参加者は施設概要の説明を受け、取締役統括管理部長 荘司敏彦氏と共に施設見学を行いました。



施設の説明をする
統括管理部 荘司部長

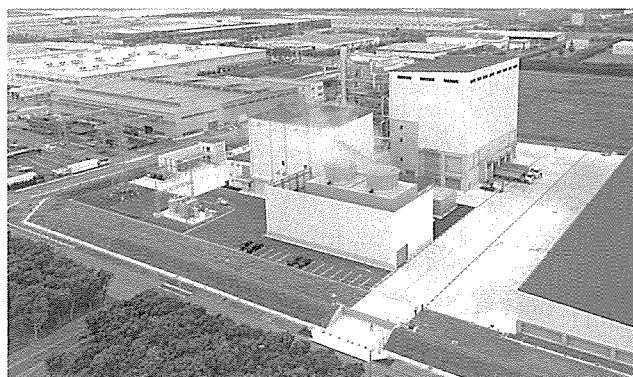
同施設は2019年7月に稼働。



参加者の皆さん

中部ガス（株）とガステックサービス（株）の共同出資により木質バイオマス発電事業を行う新会社として設立されました。

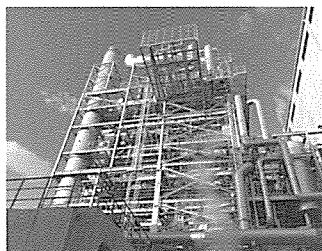
- ・ボイラー形式：タクマ自然循環式ボイラー
- ・最高使用圧力：7.2MPa（G）
- ・常用圧力：6.00MPa（G）
- ・常用蒸気温度：480℃
- ・実際蒸発量：85,000kg/h
- ・使用燃料：PKS、未利用木材、木質ペレット
- ・蒸気タービン型式：抽気復水タービン
- ・発電端出力：22,100kW



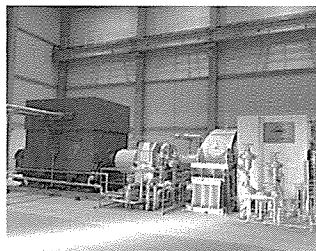
施設の全容



研修室で映像を見ながら施設の概要説明を受ける。



燃料を燃焼させて蒸気を発生させるボイラー



ボイラーから発生した蒸気を利用して発電する蒸気タービン発電機



タービン発電機その他補機類を管理する中央制御室